

臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント分科会(第25期・第1回)

議事録

1. 日時 令和3年3月1日(月) 15:00~17:00

2. 場所 オンライン会議

3. 出席者

委員:神谷研二委員長、青木茂樹副委員長、井上優介幹事、細谷紀子幹事、神田玲子委員、安村誠司委員、秋葉澄伯委員、一ノ瀬正樹委員、稲葉俊哉委員、遠藤啓吾委員、郡山千早委員、島田義也委員、田内 広委員、田代 聡委員、續 輝久委員、中島聡美委員、山下俊一委員、米倉義晴委員

4. 配付資料

資料1:放射線防護・リスクマネジメント分科会(第25期・第1回)議事次第

資料2:25期放射線防護・リスクマネジメント分科会委員リスト(令和3年2月22日現在)

資料3:提言案(医療の現場から放射線の国民的な理解促進に向けた提言)

5. 議事概要

(1)役員(委員長、副委員長、幹事)の選出について

役員の選出に先立ち、第24期委員長の米倉委員より、本分科会の設置経緯およびこれまでの活動が説明された。

米倉委員より、委員長に神谷委員を推薦する旨発言があり、了承された。神谷委員長が、副委員長に青木委員、幹事に井上委員、細谷委員を推薦し、了承された。

(2)今後の活動方針について

今後の活動方針として、神谷委員長より、提言案「医療の現場から放射線の国民的な理解促進に向けた提言」について第24期に引き続き検討する旨の発言があった。

井上委員から資料3に基づいて提言案が説明された。引き続き審議が行われ、以下のような意見が出された。

- ・ 歯科医師のことも取り上げてはどうか。獣医師はどうか。
- ・ 看護師の放射線教育について、関係者と事前に協議してはどうか。
- ・ 福島第一原発事故後10年になる。診療用放射線について法改正が行われたタイミングで、早めに提言を出すのがよい。
- ・ 福島第一原発事故への言及のために話が複雑になるのは望ましくない。
- ・ 放射線・臨床検査・病理分科会でも審議し、共同提言とするのがよい。

- ・ 提言発出後のフォローアップを考えなくてはならない。
 - ・ 医療放射線のリスクコミュニケーションでは、便益を説明することが重要である。
 - ・ 放射線科では専門医更新に放射線防護に関する講習の受講が必須である。放射線科以外の専門医教育にも、放射線に関する教育を求めているかどうか。
 - ・ 医療放射線教室や相談員といった体制構築には外部からの支援が望まれる。
 - ・ 海外と被ばく管理に関する情報交換を行う際の、日本の窓口がわかりにくいのではないか。
 - ・ リスクは確率的事象であるが、日本人は確率を考えるのが不得手なのでないか。
- これらの意見を踏まえ、提言案をさらに検討することになった。

以上